

つたもの、他には、側からは何もやらぬことで  
す。そうしますと、子供は自分の分丈を食べて仕  
舞へば、決して他の人が何を食べようが、ねだる  
ことはわりません

夫から間食させることとして、私共の経験やら、  
他から聞いた事に因りて見ますと、二歳位で、腸

などのあまり丈夫でない子供によくないものは、  
第一、餡氣のものは無論行かせぬ。夫から甘薯

も行かせぬ。かるやきは、お醫者はあまり悪く  
は言ひませぬが、これで失敗つた人は、随分聞き

ました。ビスケット、園の露など、二歳未満の子供  
には矢張り宜しくありませぬ、これはお醫者も言

ひます。比較的一番安全に思はれるのは、ウエー  
フワースといふお菓子です。菓物は必ず下劑を

起します。

貞一の日記 (明治廿六年五月) (抜萃)

母

四月七日 今日、朝より、天氣も宜しき故、久

し振にて、上野へ遊びに行き、歸途草履をはき

て歩いて歸る。午後も、門外にて犬と、戯れて

遊ぶ。

四時過ぎ、急に元氣なくなり、ウン／＼ジヤイ

(痛イ)など云ふ、母に抱かれてばかり居りし

が、二回吐す。食後二時間も、経過せし事なれ

ばか、水様のもの許りなりき、夜に入りて佐々

木先生を迎ふ。(小原先生の代診)熱は七度八分

なり、今の所にてはインフルエンザの様なり、

然し當時麻疹流行し居れば、油断はならず、ど

うか、それにならぬ様したき者なり、今の健な

らぬ身体に、麻疹にならば、他の恐ろしき余病

など引き起す憂あればと、いたく心配せらるゝ

様子なりと。

便通二回 一回は軟便。

四月八日 元氣なし。但し食氣は變らず

熱 朝(卅九度九分) 夕 全前。

軟便一回。

四月九日 咳少し出づ然し元氣は宜しくなりたり

夜余り熱高き故、復た佐々木先生を迎ふ。胸を

冷濕布にてまく、凡そ三時間毎に取り代へるべ

しとのことなり。

熱 卅九度八分

軟便 二回

食事を平常より薄くなし、魚肉も三分一と

なす。

四月十日 熱 午前八時(卅六度八分) 午後二時

(卅七度)夜九時(卅八度六分)

軟便 三回。

咳の出ること、漸く増したれば、本日より吸入

を始むること、せり。

四月十一日 顔に赤き發疹を見る。但し例に由り

食氣變らず、咳は昨日より多し、元氣なく、朝

より床に臥す、佐々木先生來診いよくはしか

ならんと

熱 朝(卅六度)晝(卅七度七分)夜(卅九度六分)

便通 三回。

四月十二日 發疹おひく胸背などにも一面に出

来る

熱 朝(卅七度五分) 晝(卅九度九分) 夕(卅

九度五分)

呼吸 午後七時 四十四

黒色軟便 三回。

吸入六回

小原先生來診せらる

母は本日より學校を休む。

四月十三日 顔も身体も、一面に、發疹す。咳烈しく出づ。今日は時ならんと、醫師は云はる、羞明烈しき爲眼は閉ちたる儘にて、少しも開かず、見えぬながらも、パンをもらふ時は、例の如く、兩手を重ねて、頂戴をなす、今夜より、母は宵の中眠りて、安田さん其間、附添ひ火鉢に炭をつぎ、寒暖計とにらみあひして、室の温度を凡そ六十四五度に保つことに注意す、母は夜半より起きて安田さんと代る、食慾は變らず、ミルクトーストのパンを少し残す、のどむつがゆき爲ならん、

熱 午前六時(卅九度)午後二時(卅八度七分)午後八時(卅九度)

呼吸 午後八時 卅五。

便通 三回 下痢

吸入 七回

佐々木先生 三回來診

四月十四日 終日終夜、ウツラ〜と眠る、覺め

たる時も、眼をひらかず、

食慾は變らず、ミルクトーストのパンを残す、

シヤム付の方は、滯りなく食す、

熱 午前六時(卅九度八分)九時(卅八度七分)二時(卅七度六分)三時四十分(卅九度一分)七時十

五分(卅八度二分)十時卅分(卅七度七分)

吸入六回

吸入六回

黒色便一回。

小原先生 來診せらる

四月十五日 今日(こんにち)は眼(め)を開(ひら)く、起(お)きたがつては、

やかましく泣(な)く、ミルクトーストにせず、牛乳(ぎゅうにゅう)は牛乳(ぎゅうにゅう)ばかり、パンはジャム附(つ)けたの許(が)りを與(あた)ふ、

熱(ねつ) 午前二時(さきん にじ) (卅八度四分) 五時半(ごじはん) (卅七度三分)

八時半(はちじはん) (卅六度九分) 午後二時(ごご にじ) (卅八度七分) 八時

(卅七度一分)

疹(はしか)の色(いろ)少し黒(くろ)くなる。

佐々木先生(ささき せんせい)來診(らいしん)。

四月十六日 今日(こんにち)は疹(はしか)余程(よほど)引(ひ)きたり、機嫌(きげん)もよく、

佐々木先生(ささき せんせい)來診(らいしん)の折(せ) 時計(とけい)を持(も)ちて、脈(みやく)を計(はか)り居(ゐ)れば、自分(じぶん)も、枕許(まくらもと)に在(あ)りし、母(はは)の時計(とけい)をも

ちてながめ、後(あと)に佐々木先生(ささき せんせい)に、是(これ)にて見(み)よとの様(よう)に渡(わた)す、先生鏡(せんせい かがみ)の様(よう)なもの取(と)り出(だ)して、顔(かほ)

を照(て)して見(み)たまへば、アオなど云(い)ひて、指(ゆび)をさし、エン〜ゴ〜(エン〜)は外(ほか)、ゴ〜は電車(でんしゃ)などいふ、夜(よ)はよく睡(ね)む。

熱(ねつ) 午前八時(ごぜん はちじ) (卅六度五分) 午後二時(ごご にじ) (卅六度) 午後八時(ごご はちじ) (卅六度三分)

吸入(きゅうぶ)七回(くわい)

便通(べんつう) 一回(くわい) 黒色(くろしよく)にして形(かたち)わり多量(たりりょう)。

四月十七日 今日(こんにち)は疹(はしか)全(ぜん)く色(いろ)さめて、黒(くろ)が、りたり、

小原先生(ささき せんせい)來診(らいしん) 牛乳(ぎゅうにゅう)は追々(おひび)に増(ま)して、一日五〇

〇瓦(ぐらむ)まで飲(の)ませる様(よう)にとの事(こと)なり。朝食(てうしやく)の時(とき)二

〇〇瓦(ぐらむ)、晝食(ちゆうしやく)の時(とき)五〇瓦(ぐらむ)、かやつの時(とき)二〇〇瓦(ぐらむ)

夕食(ゆいしょく)の時(とき)五〇瓦(ぐらむ)といふ割(わり)合(あ)ひなり、

午後(ごご)より咳(せき)少し多(おほ)くなる。

熱(ねつ) 朝(あさ) (卅七度一分) 晝(ひる) (廿六度五分) 夕(ゆふ) (卅六度七分)

吸入八回

食事 夕食の牛乳を一〇〇瓦とす、

黑色便一回

四月十八日 朝牛乳を二〇〇瓦、與へんとせしも

イヤ〜といひて飲まぬ故、余り一度に強いて、

はと思ひ一五〇瓦とす、

朝 牛乳一五〇瓦 パン二切(ジャム付)

晝 粥一椀 魚四匁 牛乳五〇瓦

ふやつ 牛乳一〇〇瓦 パン三切(ジャム付)

夕 晝に全じ

(但しパンは半斤を二日に食す、まわりのか

たき所をのぞきて)

昨日小原先生來診の時、今日の分にて、容体に

變りなくば、明日は來診せずと云はれしも、午

後に至り熱また高くなりし故、復た佐々木先生

を迎ふ、別に心配する程の事はなしと、

熱 七時半(卅六度九分)二時(卅七度六分)五時

(卅六度九分)

吸入九回

通便一回

四月十九日 咳余程少くなる、

熱 午前七時半 卅六度四分 午後一時半(卅六

度) 六時半(六度一分)

吸入七回

通便一回

四月廿日 咳追々宜し

熱 朝(卅六度三分)二時半(卅六度三分)

夕(卅六度一分)

吸入六回

通便一回

四月廿一日 咳も殆となくなる。

熱 午前七時半(卅六度七分)午後二時(卅六度

六分)午後八時(卅六度一分)

牛乳 一五〇瓦(朝)五〇(晝)一五〇瓦(かやつ)

五〇瓦(夕)

魚肉は平生に復し、八匁づ、(一回に)

便通一回

四月廿二日 熱もなく、他に異常なし

母今日より學校に行く

四月廿三日 本夜より母と安田氏の徹夜看護をや

め父母と同室に眠る井上牧師來訪、カードを下

さる、これは繪といひしに、エ、と幾度もい

ふ。

麻疹の豫後は餘程注意せざれば他に併發症を伴

ふべしとの事なり。凡そ潜伏期一週間、發疹期

一週間、而して豫後一週間は就褥せしむべきまじりなりと承はりぬ。發病の時より既に十七日を經過したり。此分にて行かば豫後も良好ならむとの事なり。

婦人と親族法 (承前)

太田 英 隆

第二款 親系及び親等

(一) 親系とは、血族や姻族が相互に連らなつて居る

血統で、二つの區別がありませす。

(1) 直系及び傍系

直系とは、自分又は配偶者から上下に連らなる

關係で、父母、祖父母、曾祖父母、高祖父母、

子、孫、曾孫、玄孫の如きであります。之れに

反して、同一始祖から分岐せる關係、即ち伯叔